



大阪市立大学
工学部同窓会

大阪市立大学工学部同窓会報 第10号

同窓会だより

1992年11月末日
大阪市立大学工学部同窓会
〒558 大阪市住吉区杉本3丁目
3-138 TEL 06(605)2789
FAX 06(605)2769
発行人 繁澤 孝

ごあいさつ

同窓会会長 繁澤 孝



工学部同窓会は理工学部が理学部と工学部に分離した翌年の1960年に創設されましたが、この「同窓会だより」はそれより20年後の1980年に第1号を発行しました。以来今年で第10号を発行するに至りました。この間会員数もスタート時の6000名から今や8000名を越し、関東支部を発足するに至るまでに発展しました。これには事務局業務を一手に引き受け同窓会活動を支えて下さっている人見先生のご尽力、更には理事、評議員の皆様方のご協力のおかげです。紙面を借りて厚くお礼申し上げます。

また大学側も工学分野の多様化に対応するため、6学科から8学科へと発展し、更に専攻課程の充実へと展開されていることは、ご同慶のいたりです。また、より高度なニューテクノロジー開発のための研究者技術者の育成という時代の要請に答えるため、引き続き新学科創設の努力をされています。会員の皆様も母校の研究環境の充実のため、各層各分野でのご協力を切にお願いいたします。

この間、世界状況も大国文化の対立による米、ソ対決の時代から今やソ連邦の崩壊、東西ドイツの統合、韓国北朝鮮の国連加盟等国際融和が進み、今や世界的にボーダレスの時代へと大きく変化しました。

この時代の変革に大きく貢献したのが衛星技術の発達、進歩であります。あの湾岸戦争をまるでコンピュータゲームまがいの感覚で同時進行的に全世界に情報を伝えたのは記憶に新しいところです。このように衛星放送や通信による情報の共有化が、世界のボーダレス化を進め国際融和に貢献した功績は大きいものがあります。

しかしその反面、各地域独自の文化が侵害されるという新たな問題も発生しています。私が従事する放送分野でも衛星放送時代を迎えていますが、各国の放送が相互にオーバーラップする事による越境放送の問題がクローズアップされています。

互いの文化が入り乱れるボーダレス時代に各地域独自の伝統文化をどうやって保存し調和させながら発展して行くのか、グローバルな文化と地域の伝統文化の関係を織物に例えれば縦糸と横糸の関係にあります。この織物が繊細な模様を持ったすばらしい織物に仕上がるためには縦糸と横糸のバランスが決め手であり、どう仕上げるか、これからは人類の知恵が試される時代になります。

21世紀に向いボーダレス化の進む昨今についての雑感を述べさせていただき、第10号発行のご挨拶といたします。

なお末筆ながら皆様方の益々のご発展とご健勝をお祈りしますと共に、昨年の会員名簿発行に際し会員各位に多大なご協力を頂きましたこと、厚くお礼を申し上げます。
(応物・昭和32年卒・(株)毎日放送技術局長)

“同窓懇親パーティー1993”のお知らせ

同級生や職場の同窓生をお誘い合わせの上、気軽にご参集下さい。

新春の宵の一時、

同窓の絆をより強くするためのフランクなご歓談の場として企画しました。

詳細は、10ページをご参照下さい!!

工学部の現況

名誉会長 木下 雅悦



平成2年4月に発足しました情報工学科および生物応用化学科のための学舎が建設中でありましたが、3年春に竣工しましたので、同年5月に上記2学科が新学舎（F棟）に移転しました。同時に関連

学科の大幅な改修工事も行われ、これら2学科の一期生諸君をふくめ4年4月からは新装なった工学部学舎で専門課程の教育・研究を行っています。6年3月にはこれらの第一期生が学部を卒業しますので、この時期に合わせて平成6年4月に情報工学専攻および生物応用化学専攻を発足すべく新専攻開設準備委員会（委員長・園田教授）で準備をいそいでいます。

また、かねてよりの念願の10学科に充実すべく、新学科開設準備委員会（委員長・中井教授）で検討を進めています。

めまぐるしい科学技術の進歩と工学の発展に対応するため、実社会からの協力を仰ぎ、現在、メンブレイン構造（太陽）講座（建築学科）およびマイクロエレクトロニクス（オムロン）講座（応用物理学科）の2つの寄附講座を設置しています。もちろん公立大学で最初の寄附講座であり、活発に教育・研究活動に参加しています。

新しい地域社会の時代に対応すべく、大学基本計画に沿ってめざましい施設の拡充と諸般の改革が着実に進められています。これらは関係各方面のご理解とご尽力によることは言うに及ばず、なかんずく同窓会諸兄のご活躍が基盤にあるからでございます。より一層のご指導、ご支援をお願いいたします。

皆様方のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

（工学部長・生物応用化学科教授）



竣工なった工学部新学舎F棟

機械工学科の近況

東 恒雄



大学祭（银杏祭）が近づき、卒業研究もいよいよ佳境。この頃になると学生の目付きも少しは変わってきます。卒業生の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。

向かい風が吹く経済状況下ではありますが、大学院生8名、学部生24名（内女性2名）の就職先も例年どおりの好調さで内定しました。これもひとえに先輩諸兄姉のご奮闘のためものと感謝する次第です。学部卒業予定者のうち、15名が大学院に進学予定。現在、修士1年生は23名、内留学生在が9名とここ数年の間に大学院の充実と国際化が進んでいます。国際化といえますと、教員の研究活動も活発で、毎年3、4名の教員が海外での国際会議で発表しています。現在も材料力学講座の元木信弥助教授が一年間の予定でパリ大学に留学中です。

昨年3月には機械工作講座の玉村謙太郎先生が定年退官され名誉教授になられました。また今年3月には流体工学講座の布部誠助手が東洋運搬機（株）の技術研究所に転出されました。来年3月には機械設計工学講座の上田祐男教授が定年退官される予定です。長年ご活躍いただいた先生方が大学を去られるのは淋しいかぎりです。しかし一方で新しい先生をお迎えすることができています。昨年4月には流体工学講座に名古屋大学から加藤健司講師が着任し、学科に新風を吹き込んでいます。今後教員層の充実をはかっていく予定です。

折から、大学設置基準の大綱化で教養課程の廃止に向けたカリキュラムの改革などの検討が行われています。来年度から週休2日制も実施される見込みです。また、第9学科新設の計画もあり、機械工学科も模様替えをすることになるかも知れません。これも時代の流れでしうか。

悲しいお知らせです。都島工専から昭和44年まで機械工学科で教鞭をとっておられた部谷尚道先生（福井大学名誉教授）が昨年10月にお亡くなりになられました。ご冥福をお祈り致します。

さて、今年4月には関東在住の機械工学科卒業生の同窓会「こいさん会」例会にお招きいただきました。都島工専時代から最近卒業された方に至る約40名の方々の近況などをお聞きし、そのご活躍ぶりに市大の教員として誇りを感じました。久しぶりの楽しいお酒でありました。

最後になりましたが、皆様の一層のご健康とご発展をこころよりお祈り申し上げます。

（機械工学科主任教授）

電気工学科の近況

青笹 正夫



工学部学舎南のいちょうも色づき始め秋らしくなってきました。同窓会会員の皆様にはお元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて電気工学科の近況ですが、「電子回路学」講座の松下賢二先生

は本年3月、米国ペンシルバニア州立大学での1年間の留学を終え帰国され、10月1日付で「電気通信工学」講座担当として教授に昇任されました。「電気機器学」講座の渡辺博巳先生は昨年10月東京都立科学技術大学電子システム工学科に転出されました。その後本年4月、山田正一郎講師を「電気機器学」に大阪府立大学からお迎えました。現在これで5講座の教授が全員揃い、助教授2、講師3、助手6名をあわせて16名での教育研究体制ですが、教員一同情報工学科とも協力しあい、さらに学科を充実発展させたいと考えております。堤四郎、三谷七郎両先生は本年度一杯でお勤めを終えられますが、ますますお元気です。電気工学科の世代交代もさらに進んでまいります。平井平八郎、北浜安夫、竹屋芳夫、奥田滋、安藤慶一先輩教授の先生方もますますお元気で、北浜先生はこの春、勲三等旭日中綬章を叙勲されました。現在電気工学科には学部生189名、大学院生49名（うち、前期博士課程43名）が在籍していますが、このうち女子学生が7名、留学生が11名と増加の傾向にあります。学生の進路選択状況ですが、学部卒業予定者40名のうち19名は大学院に進学、大学院前期博士課程修了予定者19名は全員就職となっています。全国的にどこの大学でも後期博士課程への進学者が激減していますが、我々の学科においても在籍者のほとんどが留学生といった状況です。バブル経済の崩壊で、学生諸君の就職については当初心配しておりましたが実際には全く影響はありませんでした。これも会員皆様の作られた社会的信用の御蔭と心強く思いました。しかしながら、わざわざ直接求人のために訪ねて頂きながら御要望にお応えできないことが多く申し訳なく思っております。

電気工学科教員一同も、国内外における学会活動に積極的に取り組んでおります。最後に会員皆様方の御健勝をお祈り致しますと共に、電気工学科へのなお一層のご支援をお願い申し上げます。（電気工学科主任教授）

応用化学科の近況

藪頭 健吉



一昨年に引き続き、今年も主任を御引き受けすることになりました。卒業生の皆様には御元気で活躍の事とおよび申し上げます。先輩教授の井本先生はじめ、熊田、大饗、原納の先生方もますます御元気です。

さて、応用化学科の近況ですが、本年3月大津隆行教授、平井竹次教授、椎名助教教授が退官され、大津、平井両教授は名誉教授になられました。長い間御苦労様でした。平井先生は松下電器産業株式会社の技術顧問として、大津先生は講演論文書きや、来年4月開設予定の近畿大学生物理工学部の準備に、また椎名先生は大阪教育大の非常勤講師とナード研究所の研究顧問として、御活躍中です。後任教授には高分子化学講座に青木修三教授が、無機工業化学講座に小槻勉教授が就任されました。悲しい知らせがあります。椎名先生の後任に、生物応用化学科から移籍されました幸塚正児助教授が、4月21日に急逝されました。今後の活躍が期待されていただけに残念でなりません。御冥福を御祈り致します。また若手教員の移動も多く、昨年10月有機工業化学講座の眞野倅一講師が、信州大学教養部教授に栄転され、後任には、大阪大学理学研究科で学位を取得された鬼塚清孝助手が、4月に着任、10月には、高分子化学講座の園藤紀代司講師と無機工業化学講座の澤井圭二郎助手が、それぞれ助教授、講師に昇格されました。

国立と私学の谷間にあるといわれた市大の研究環境も、最近急速に改善されつつあります。応用化学科にも、生物応用化学科と共同で、大型特殊設備として、全核種測定可能な超電導FTNMRが設置されることになり、研究能率の向上が期待されています。大学改革の波は市大にも波及し、教養課程の見直しや、専門課程のカリキュラム改革が進行中です。また新学科の大学院新設計画に伴い、応用化学専攻でも、第五講座に化学材料工学の設置を計画しています。

つぎに、学生の就職動向ですが、数年来続いた異常な売り手市場も、本年はかげりが見えてきました。それでも求人数は多く、700社近くの申し込みがあり、また産業の融合化現象を反映して、他分野からの求人も多く、諸先輩の御要望に応じ切れず申し訳なく思っています。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍をお祈りするとともに、なお一層のご支援をお願い致します。

（応用化学科主任教授）

建築学科の近況

成瀬 哲生



学科内事情により、昨年に引続き学科主任です。教室の近況をご報告します。

まず、昨春、1 昨年秋に本学名誉教授上田光雄先生が勲三等旭日中授章を叙勲になりましたので、そのお祝の会を開きました。

次に昨年4月、公立大学初の寄附講座が、太陽工業の助力により「メンブレイン講座(太陽)講座」として開設されました。同社から南宏和客員助教授と京大防災研究所から奥田泰雄助手を迎え、膜構造物材料の力学的性質に関する研究等を進められております。この講座は、好評なので更に2年延長が認められ、平成6年まで継続の予定です。なお、南助教授は同12月に本学より学位が授与されました。

昨年10月に建築構造学講座の坂壽二助教授が、教授に昇格し、後進の指導に、また現学生部委員としても活躍しています。本年3月、長年勤められた都市計画講座の齊藤和夫先生、工学講座の三輪嘉男先生、建築環境工学講座の太田洋一先生の3人が定年退職されました。長年学科の研究教育につくされたその功績は多大なものであります。心から感謝申し上げます。

このように、現在は教員の構成が変化しつつあり、後任の補充が少し遅れ、学科としては研究教育の一層の充実発展をはかるべく鋭意努力中です。

本年度は、4月より川村純夫教授が2期4年の工学部長職を無事終えて、やっと学科に戻ってこられました。激職務で本当にご苦労様でした。多胡進教授が評議員として、大学の運営にご活躍です。

一方、海外交流も盛んで、昨年9月コペンハーゲンの国際シェル立体構造学会に南助教授・村上・谷口両助手が、本年7月トロントでの同学会には坂教授が、昨年7月カナダ世界風工学会には川村教授、木内・谷口助手が研究発表しました。私は昨年3月より3ヶ月間、ロンドン大学・ベルリン工科大学に出張し学术交流しました。

学生は、就職状況が好調でしたが、内定者の中に必修単位未修者がかなりの数あり、本年度も留年者が出そうで、学科主任として大いに心配しているところです。また全学的に教養教育の改革を中心としてカリキュラムの改定が進められていますが、学科としても全面的に改正を行うべく見直しをしております。

皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

(建築学科主任教授)

土木工学科の近況

園田恵一郎



昨年来、市大は新制大学として発足以来の最大の課題に直面しています。それは従来の教養部の廃止を前提とした教育課程改革と自己評価制度の確立であります。いずれも大学審議会の答申を受けた文部省の指導による課題であり、

いわば外圧によって引き起こされた問題ではありますが、18歳人口の減少期に入った今年から来世紀初頭にかけて始まるであろう大学のサバイバルゲームに勝ち残るためには、これらの課題を避けて通ることはできないことは明白になっています。本教室の小田教授は全学組織である教育課程改革委員会の副委員長として、また私は自己評価委員会の工学部代表委員として重要な任務を仰せつかっています。一方、工学部内部では、第9番目の学科として材料開発工学科の新設に向けて、新学科開設準備委員会委員長としての中井教授を中心として鋭意検討されたところです。このように他学科に比べてまだまだ若いと思っていた土木教室の教授陣も今や工学部教授会の重鎮(いや長老?)になっており、年月の経つ速さを痛感している次第です。

ところで、私は今回が三度目の教室主任です。製造業全般の景気の後退で、学生の就職が心配されるころですが、これも外圧のお陰でしょうか、公共事業の刺激策もあって、土木工学科の学生の売れ行き抜群で、私が経験した中では本年度は最高の売り手市場であると思います。しかしながら、どんな学生でも一流会社に採って貰える状況は、学生を甘やかしはしないかと心配しているところです。長い目で見た場合、卒業生はできるだけ広い分野で活躍してほしいと願っており、中堅の会社への就職の勧誘も行っていますが、なかなか思うにまかせないのが現状です。また、公務員については、相変わらず大阪市や大阪府などの地方公務員に集中しており、国家公務員への奨励もつづけていますが、これも思うにまかせず、ここ2、3年は国家公務員I種試験に毎年1、2名合格する状態にやっとなりました。

つぎに教員の動向ですが、本年4月に材料・環境工学講座の真嶋講師が助教授に昇格され、同講座の貫上助手は3月末より一年間米国のシンシナチー大学に留学されています。また、昨年より土質工学講座は中国の同濟大学との間で研究者交流を行なっておられ、その他、教員の国際会議等への短期出張は相変わらず盛んで詳細は割愛させていただきます。最後に、同窓会関係の朗報として、名誉教授の三笠正人先生が紫綬褒章を貰われ、6月6日に土木会でお祝いの会を催しました。

(土木工学科主任教授)

応用物理学科の近況

勝俣 五男



今年は天候不順ではありましたが、日一日と秋の気配が深まりつつある今日、この頃であります。同窓会の皆様にはお元気にお過ごしのこととお慶び申し上げます。私も2回目の学科主任ということで学科の運営の進行係りとして微力を尽くさせていただいております。

さて、応用物理学科の近況でございますが、先ずは今年1月19日夜、「数理工学講座」の谷本助教がお亡くなりになったことをお知らせしなければなりません。従来からの肝臓の持病の突然の悪化と聞いております。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

学科の人事については御報告が沢山あります。4月1日付けで美馬宏司氏が「レーザー工学及び電子物理学講座」の教授に昇任され、曾我部伸氏が同講座の助教授に数理工学講座から移動されました。これに藤井康夫講師を加えた3氏により同講座は運営されております。次にお知らせしなければならない事として、大倉名誉教授の御努力が大きいと承っておりますが、オムロン株式会社による寄附講座、「マイクロエレクトロニクス（オムロン）講座」の同日付けの開設も大きなニュースと存じます。教授は森雄造教授が兼務され、オムロン株式会社より着任された緒方司郎助教授と本学科卒業生の石田順也助手ともども講座の立ち上げに頑張っておられます。応用物理学科に新鋭の研究設備による大いなる可能性をもたらすものとして御期待いただけるものと存じます。

最後に、数理工学講座の教授人事についてで御座いますが、公募いたしました所、多数のかたがたの応募をいただきました。そのなかより鋭意人選を重ねた結果、福岡工業大学教授として御在職であった中村勝弘氏を適任として工学部教授会に推薦、御承認いただき、この10月1日付けで発令され、着任いただきました。中村教授は非線形物理学の分野で業績を積んでおられます。最近注目を浴びるに至った量子カオスの領域では先駆的なお仕事により著名で御座います。非常に活発な方ですので応用物理学科最若手の教授として学科の発展の原動力としての活躍を期待いただけるものと存じます。

今年は、卒業予定者の就職活動が例年になく長引きましたが、最後の1名の採用通知を先程いただきました。

最後に、皆様の御健康と御活躍を祈念申し上げて近況報告を閉じさせていただきます。

(応用物理学科主任教授)

情報工学科の近況

細川 省一



工学部の前に繁っているけやきの濃く映えていた緑色が少し色あせ、ようやく秋らしい昨今となりました。卒業生の皆様にはお変わりなくお元気で活躍のこととお慶び申し上げます。

情報工学科は平成2年4月に開設され、3年目を迎えました。開設時に入学した1期生がようやく3回生になり、いよいよ専門科目を本格的に学習しています。カリキュラムには情報数学、計算機工学、プログラミング言語、情報理論などの基礎科目に加えて情報伝送論、ネットワーク論、アルゴリズム論、ソフトウェア論、信号処理論、画像工学、言語工学、情報システム工学、生体情報工学、知識工学など情報工学科らしい科目が提供されており、学生はこれらの科目と電気工学の基礎科目等を修得することになっています。

山下一美教授が、平成4年3月をもって定年を迎えられ、本学の名誉教授の称号を授与され、退職されました。先生は、電気工学科在籍中から情報工学科の新設の必要性を説かれ、そのために多大の努力を重ねられてきました。そのかいあつての新発足でしたが、ようやくその基礎ができようかというときに退職されるのは、学科にとってまことに残念なことです。先生は、関西大学工学部電子工学教室に奉職され、ひきつづき教鞭をとっておられます。

学科開設時から、卒業生がでる時に合わせて、大学院の情報工学専攻を開設したいとしてきましたが、部長をはじめ工学部全体、特に、電気工学科の協力を得て、平成6年4月の開設に向けての計画が進んでいます。現在の計画では、工学部共通講座として新しく1講座が開設され、現在の4講座にその講座を加えて5講座として情報工学専攻が構成されることになっています。

以上のように、まだ卒業生を持たない新しい学科ですが、各方面から卒業生の就職について訪問を受けるなど、いまさらながら責任の重大さを再確認しています。有為の人材を送り出すため、教員一同努力する所存でありますので、同窓生の皆様には何かご援助いただきますようお願い申し上げます。最後になりましたが、同窓生の皆様のご健勝とますますのご発展をお祈り申し上げます次第です。
(情報工学科主任教授)

生物応用化学科の近況

仲矢 忠雄



本年1月に国枝紀夫講師が4月には幸塚正児助教が他界なさいました。両先生は旧応用化学・生物応用化学を通じて長い間両学科のために御尽力なされ、これからという時におなくなりになりましたことは言葉で云いあわせない

深い悲しみです。両先生の御冥福をお祈りいたします。

新学舎に移転しましてから早や1年半になりますが設備の充実が着々と進められております。また教員人事でかなりの移動がありました。大嶋 寛助手が本年4月から、山内 清講師が10月から助教授に昇任され、北村昌也氏が4月から岡本浩行氏が10月から助手として外部より赴任されました。新進の先生方の活躍が期待できると思います。最近の当学科のスタッフと研究テーマを一覧表にしてみました。

生物工業化学	教授 助教授 助手	仲矢忠雄 笠井佐夫 北村昌也	生体類似膜、生体膜工学、 遺伝子工学、タンパク工学 生物発光の機構と応用
生物化学工学	教授 助教授 助手	加藤錠治 大嶋 寛 岡本浩行	バイオリクター、バイオ プロセス工学、生理活性物 質の分離精製
生体機能化学	教授 助教授 講 師	太垣一郎 玉垣誠三 荻野健治	生化学反応機構、生体類似 精密有機合成、人工酵素の 分子設計
生体材料工学	教授 助教授	木下雅悦 山内 清	高分子膜、機能性高分子の 合成、天然高分子の化学と その利用

3年前入学して来た当学科最初の新生はもう今は3回生です。来年4月には進学・就職の進路決定の時期になります。そこで来年大学院設置の準備を進めています。小さい学科・学部ではありますが日夜研鑽に励みよい研究を一つでも多く生みだす所存でございますので何卒これまでと同様のご支援を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、皆様方の御健勝と御活躍をお祈り申し上げます。
(生物応用化学科・主任教授)



工学部杉本学舎 (1991年10月)

思い出のひとつ

玉村謙太郎



私が田中行雄先生(現関西大学教授)のお世話で理工学部にて採用されましたのは昭和30年10月で、教授は機械工学科の古市亮蔵先生でした。それ以前に勤めておりました会社では、日本で最初の特種な工作機械の設計製作に関与しておりましたので、円満退社するまでには少々時間がかかりました。

市大へ移る決心をしたのは、その昔、阪大の産業科学研究所でお世話になった浅井滋夫先生が、応用物理学科に居られたのと、田中先生からはその以前の母校へのことを含めて二度目のお誘いでもあったからでしたが、もう一つは、いずれは会社で関わっていた特殊な「カッター」の研究などでもできるだろうぐらいに安易に考えていたからでした。

転職してからは、事の成り行は当初の思い通りには進みませんでした。しかし、いつも多くの先生と先輩にお教え頂き、また同僚、友人や学生さんらに支えられて無事に定年(平成3年3月)まで勤めさせて頂きました。改めて厚くお礼申し上げます。

35年余の間には、それこそ思い出が一杯ありますが、私事ばかりで恐縮ですが、この度は自動車通勤のなれそめについてお話し申し上げます。

昔は「こんな狭い日本で自家用車がそんなに普及するはずはない」と免許を取得する気など毛頭ありませんでした。今から思えば先見の明のなかったことです。

昭和40年頃でしたか、機械工作実習に使用できる機械の台数が少ないこともあって、古市先生のご発案で、自動車の分解・組立てというテーマを設けることになりました。さっそく中古車を一台購入して、手さぐりで分解組立を総出でやりました。その折に教える側の人間が整備士の資格まではとに角として、運転免許も持っていないようではと急遽取得を考えたわけです。同僚の中山先生は暫く顔を見ない間にさっさと取得を済ませておりましたので、私は放課後の扇町学舎の運動場で、S字とクランク走行を何回かそっと教えてもらい、後は止めた車の中で、手と足の連係動作を繰り返し練習しただけで、自動車学校へは入学せず、30分×10回ぶんのチケットでコースを走りました。

その程度の準備で、門真市にあった試験場の門を潜り運良く1回目の試験で合格しました。当時の学生さんは「それは嘘でしょう」と言うし、技術員の坂田さんには「試験官が何か間違ったんとちゃいまっか」と冷やかされるし、散々でした。運転歴が三十年に近づいて来た此

頃でも、あの時ほど見事な一発車庫入れは、10回に1回もできません。自動車に限らず『ものうごかす』には、理屈だけではどうにもならない点があるようです。

免許を取得したら、できるだけ早く馴れるほうが良いとの人の奨めもあって「ブルバード」の中古車を買って乗り始め、杉本学舎の通勤にも使いだしたという次第です。口の悪い学生さんは「ポローバード」と呼んでいたようです。

その後現在で4台目の車ですが、どの車も私と共に、市大工学部の移ろいとキャンパスの風景を時にはハラハラと時には楽しく眺めていたと思います。

中でも大学紛争当時のこと、工学部階段教室裏のハクモクレンと生活科学部前の桜の満開の眺めなどは、学年度末と年度始めの多忙な行事とも重なって強く脳裏に焼付いております。

終りに母校のますますのご発展と皆様のご健勝を念願して筆をおきます。

[大阪市立大学名誉教授 (元機械工学科教授)]

理工学部創設のころ

大津 隆行



お蔭様で、本年3月、大阪市立大学を定年退職致しました。理工学部が発足した翌年の昭和25年、井本 稔先生(本学名誉教授、元二代目工学部長)の研究室へ入れて頂きましたので、以来42年市大で研究を続けさせてもらったことになります。これは、市大教職員、卒業生、研究生など多くの方々のご支援の賜で感謝の気持ちで一杯です。ここでは、私が市大へ来たころの話—恐らくその頃を知る最後のものとして—一記させて頂きます。

市大理工学部(英文名は Institute of Polytechnics といいました)は、小竹無二雄初代学部長の「基礎に重点を置いた工学部」あるいは「理科的工学部」の創造を理念に、昭和24年創設されました。教授陣は、全国からそれぞれの分野で既に業績をあげられ、活発に研究活動を展開しておられた若手の方々が中心に参加され、大阪市の強力な財政支援と斬新な研究・教育体制の確立を旗印に、ドイツの technische Hochschule、アメリカのマサチューセッツ工科大学(MIT)をめざしていました。ここに途中からとはいえ、仲間に入れて頂いたこと、しかもそれが日本の大学で最初に発足した「高分子化学講座」であったことは、大変なよろこびでした。キャンパスは大阪駅に近い(徒歩10分)扇町の焼け残った古い小学校を改装したお粗末なもので、階段のエッジはすれて

なく、窓枠はさびついて開かず、無理して開けようものなら壊さずに閉めるのに一苦勞する代物でした。また、排水は床溝排水のためしばしばあふれ、階下の研究室に被害を与えたものでした。しかし、研究活動は大変活発に展開され、何人かが毎日交代で徹夜実験をしていた(当時は米、酒、煙草などは配給制でした)ので、あたかも研究室は不夜城の感がありました。昭和26年東大で開催された日本化学会春の年会で、市大からの研究発表件数は全国の大学・研究機関のうち第4位にランクされました。また、大阪駅に近いという便利さのためセミナーや研究発表会などの開催や全国からの研究者の来訪が盛んで、研究討論なども活発に展開されました。

しかし、理工学部が創設された年からシヤウブ税制勸告(大阪市の収入であった遊興飲食税などが国の収入となった)が実施され、翌25年には巨大なジェーン台風が大阪市を直撃し、大被害をもたらしました。この復旧のため、大阪市は深刻な財政難に落ち入り、加えて学内事情や文部省のいう学部編成名と理工学部がなじまなかったことなどの理由から、次第に理工分離へと向うこととなりました。創設から10年目の昭和34年、工学部と理学部が誕生し、私共は工学部応用化学科に属することとなりました(市大百年史参照のこと)。しかし、そのあとも理工学部創設時の理念は継承されました。

昭和39年、市大キャンパス統合計画に従って、工学部の第1期工事が完成し、機械・電気・応化の3学科が移転しました。当時の杉本町キャンパスの理工地区は、さきに移転した理学部はできていたものの工学部第2期工事の完成・移転は昭和41年で、周辺の整備は家政学部(現生活科学部)の移転(昭和51年)まで持越されました。昭和43年全国的に始まった大学紛争、それに続く工学部紛争は大へんかなしいことでした。平成2年9月29日号のAREAなどに「MITになりそこねた大阪市立大理工学部」という記事がでました。確かに、制度としては早すぎたこともあって挫折したけれども、その理念は大阪大学基礎工学部で具現化され、また本工学部でも生き続けているのであります。

[大阪市立大学名誉教授・(元応用化学科教授)]



理工学部創設時の扇町南学舎

市大の内と外

平井 竹次



私が旧制S中学生時代、毎年20人前後の学友が憧れを抱いて商大予科、高商部へと進学していた。当時の杉本町界隈は一面の畑で、その中に古めかしいが、がっしりした学舎がぼつんと建っていた記憶がある。K大学生の時見学を訪

れた扇町の市大理工学部は北の繁華街を通り抜けた所にあり、借物の校舎ではあったが、いかにも熱気むんむん、意気旺んな隆盛期にある学部であった。S教授の御案内でガラス細工の見事な業をみた。他ならぬ酒井豊氏の若き日の姿であった。ついでM電器に入社してみると、そこでも商売上手で定評のある旧商大系、高い研究開発意欲を誇る理工系の市大勢が大活躍していた。昭和40年から約18年間御厄介になった国立O大学工学部、そこでも、教授5人助教1人の市大関係者が活躍しておられた。

このような経過から、私の市大に対するイメージは大変好意的で市立商科大学を基盤に、高邁な建学の精神の上に立って都市総合大学へと成熟期に向っている一味違う大学と映っていた。昭和58年秋、私にとって思いもかけぬことが起った。市大工学部への転出である。市大内部の人となったのである。スリムで、スマートで、密な研究教育態勢を誇る工学部と位置付けていた所で仕事をする喜びを感じとることができるわけである。着任してみると現実とは厳しかった。多くの方々の御尽力で実現したことを感謝しながらも、外から眺めていたのと内で視るのとは違うことに戸惑いを感じた。私の戸惑いの解消に、工学部には固有の経過が内在することを暗に教えて下さった方もあった。時代は流れてゆき、ゆるやかな方向舵の操作で少しずつ展望が開けてゆくように思えた。平成2年度、工学部に2学科が同時に新設された。このような例はめったにない。市大工学部は立派に再生し、増殖したと感じた。御関係の先達の方々の絶大なる御努力の賜であった。

平成4年3月私は市大を定年退職し、M電器に復帰させて頂いた。そこでは、300名に近い市大勢が活躍中であり、市大出身のお二人が最高経営陣の要職にあったことにも驚いた。市大の動きは、つねに話題性に富んでいる。マスコミに批判されたり、陰口をたたかれたりはあるが、義と理をわきまえた正統派であることは間違いない。わずかな在職期間であったが、私も何時しか、市大の魅力の虜になってしまっていたようである。やがて、工学部も50歳を迎える。一層の御発展を祈りたい。

[大阪市立大学名誉教授 (元応用化学学科教授)]

リサイクル教授から男芸者に

本多 淳裕



大学を退職してアツという間に1年半が過ぎてしまいました。私は大阪市立環境科学研究所に勤務していました昭和40年頃から、人の便利や贅沢のために自然界から持ち込んだ物は単に消費(ごみにする)せず、何らかの資源としてリサイクルすることを提唱(科学技術庁から昭和44年に勧告)し、その関連の研究をしてきましたが、昭和60年からの大学生活では従来より幅広くそれを進めることができました。物のリサイクルの旗振りをする当の本人もリサイクル教授であったのです。

特に、現在、処理処分が困難であると社会問題になっている生活系のごみは年間0.5億ton程度排出されていますが、毎年建設資材として構造物に使われている物は約10億tonに達し、その内0.8億tonは建設系廃棄物として捨てられているのです。それらのストックが解体廃棄されるようになると、日本はその建設廃材で埋まってしまうことになりかねません。自動車、家電製品、家具など粗大ごみもドンドン増大しているのです。そのため私が提唱した当時は見向きもされなかったリサイクルが不可欠な方向になってきて、平成3年にはリサイクル促進法も成立しました。

長年、研究生生活を続けてきて、やっと自分の時間が持てるようになって思っていました。まったく息つく暇もなく、各地の官公庁、公益法人、業界、消費者団体などから、相談、講演依頼、研究会出席依頼などが殺到しています。私でもお役に立つようでしたら謹んでお引き受けしましょうと、お座敷がかかると、男芸者のように資料片手に全国を飛び回っていますが、最近では日程のやりくりがつかずにお断りすることが多くなっています。その上に、出版社や雑誌社からの依頼も多く、長年蓄積した知識と主張を遺言のつもりで執筆してきました。もともと、ハジと字は書くようにできていて思っていて、書きまくっていましたが、退職後も単行本だけで4冊出版しました。リ・リサイクル男もなかなか忙しいのです。

現在、(財)クリーン・ジャパン・センター参与をはじめ、20以上の非常勤の仕事をしています。元市大工学部教授を肩書にして活動させてもらっています。いろいろ迷惑をかけるかも知れませんが、元気な間は男芸者で社会に役立ちたいと思っていますのでよろしくお願ひします。

(元土木工学科教授)

私が大阪市大に赴任した頃

横田 萬里夫



私と串部宏之君が、はじめて大阪市立大学を訪れたのは、昭和29年の9月の末のこと、地下鉄我孫子駅から二人であてずっぽうに歩いてゆきました。古びた杉本寮、新しくても重々しい理学部の建物にむかえられ、これがこれからの

我々の職場かと、やや緊張した趣で、構内へと入って行きました。真新しくても愛想のない工学部の5階にある研究室は、がらんとして何もなく、窓の外には工場から出た粉塵で、ぼつとかすんだ泉州の山なみが見えていました。

私が本学に行って働きたいと思ったのは、戦後あの恒藤恭先生が先頭に立ってつくられた大学であるとの魅力にひかれてのことでした。御息の敏彦氏とは友人であり、彼のアメリカ留学中、よく小さい娘までつれて一家で恒藤宅を訪ね、特に恒藤先生の奥様に戦前戦後の苦労話などがあっておりました。

いよいよ大阪市大で働くことになり、その頃京都の北修学院に十坪の居をかまえていた私は、京阪電車で大阪にかよっていました。その電車の中でよくお目にかかる先生方の中で、理学部生物学科の朝山新一先生について述べてみたいと思います。朝山先生は若者が好きらしくその多彩な人生経験の中から面白そうなことを私に楽しそうに話して下さいました。朝山先生は戦後すぐ旧満州から引揚げられましたが、京都市内に入居できず、やむなく神主の資格をとって神社の宮司として京都市内に居をかまえることができたそうです。

大阪万博のとき、現況を後世に伝えるための企画で、日本の性風俗を担当され、「俺は性の専門家でもゲイの世界のことは知らんのだ。それでゲイパーに行ったのが面白かったぞ、お前も今度つれて行ってやる」と約束されたのですが遂に実現しませんでした。

奥様が御病気になられたとき、世界中の知人に薬を求められたとの事、このようなお話しの後「お前、女房を大事にしろよ」とおっしゃられたことが身にしみて思い出されます。

市大に来て最初の研究テーマはとなりの戸村研究室からもたらされました。石黒英治君が4回生から修士にかけて、有機溶液中での2種の分子間エネルギー伝達の実験をしていました。ナノセカンドパルスを用い温度変化により拡散係数を変化させる、斬新な実験でした。分子が動かなければフェルスターの理論式に従うだろうことはすぐわかりましたが、拡散する場合どうしたらよいかと考えました。まず谷本脩君が散乱問題に関するフェル

ミーの有効半径の理論が使えることをみつけ、エネルギー伝達の確率が拡散係数の4分の3乗に比例することがわかりました。そのころ毎日のデータが一定しなかった実験も斬く理論とも一致するところに落ち着いてきました。

そこでエネルギーをうけとる分子の発光の様子を時間の関数として表す理論を開発することにしました。

一般的な原式を拡散係数で展開する方法をみつけ、時間に関してパデ近似を用い、谷本君とお互独立に計算してはつきあわせ、一ヶ月程して一応の計算が終わりかけたとき、東大教養部での学会発表がせまってきました。そこで発表の日、午前中から谷本君と小出昭一郎君（前山梨大学長）のところにゆき、手まわし計算器と数表を用いて、午後3時の発表に間にあわせました。

あの当事、私ものんびりしたもので、教授会をよくさぼり京都大学基礎物理学研究所の図書室で勉強していました。昔がよかったとはいいませんが、せちがらいところからは、あんまり価値あるものが生じないのも事実ではないでしょうか。

〔大阪市立大学名誉教授・(元応用物理学科教授)〕





創立百周年記念碑

会員名簿協賛広告の訂正

当会々員名簿第7号(1991年11月25日発行)にご支援いただいた(株)日本触媒様の協賛広告(P27)に下記の誤りがございました。ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げ、下記の通り訂正致します。

会員名簿編集委員会

誤	正
 日本触媒	 日本触媒

宮尾信昭氏

藍 綬 褒 章 を 受 章

宮尾信昭氏（昭和23年機械卒、吉田鉄工所および四国溶材顧問）は、平成3年の秋、晴れの藍綬褒章受章者となりました。同窓会としてその栄誉をたたえますとともに、心からお祝い申し上げます。

宮尾氏は、昭和34年から平成2年にかけて、日本工業標準調査会臨時委員、日本溶材協会特許部会委員、特殊材料溶接研究委員および粉体接合加工技術研究委員などを歴任され、その溶接技術に関する多く知見を工業標準化に反映させられた功績により藍綬褒章の栄誉によくされました。

事務局年報（'90・11～'92・11）

'90年12月…会員懇親パーティー1991への勧誘（25日）。
'91年1月…理事会にて第7回評議員会議案の検討（11日）。

2月…新阪急ビルスカイルームにて第7回評議員会および会員懇親パーティー1991を開催（8日）。

3月…工学部送別式および樽酒の鏡割に繁澤会長、植木副会長他理事有志出席（25日）。'91年度入学手続生に当会の案内・会費払込み要請状の配布（13日）。

4月…市大連合同窓会にて第100回記念ポート祭への特別贈金を了承（26日）。市大広報第14号を購入・配布（25日）。

5月…第10期初理事会にて事務員手当改善、ポート祭への特別贈金および工学部新学舎竣工祝金を決定（17日）。

6月…関西廣済堂（株）と第7号会員名簿の発注を契約（17日）。新入生・新卒者に会費督促（27日）。

7月…第7号会員名簿の予約・本人確認ハガキの発送（8日）。

9月…市大広報第15号を購入・配布（9日）。

11月…第7号会員名簿の製本完了（31日）。

12月…予約会員名簿の発送（5日）。市大広報第16号の購入・配布（14日）。

'92年1月…生物応用化学科国枝紀夫講師ご逝去（6日）。応用物理学科谷本脩助教授ご逝去（21日）。第2回理事会にて、市大コンサートバンド30周年記念訪中演奏旅行への援助を決定（24日）。

2月…関西廣済堂（株）へ第7号会員名簿の印刷・製本代金の支払（20日）。

3月…'92年度入学手続生に当会の案内状・終身会費払込の要請状を配布（15日）。工学部送別式および樽酒の鏡割に繁澤会長および理事有志出席（24日）。

4月…市大広報第17号の購入・配布（18日）。応用化学科幸塚正児助教授ご逝去（21日）。

5月…大給照二郎理事ご逝去。

6月…'92年度新入生・新卒者に会費督促（6日）。

8月…市大広報第18号の購入・配布（6日）。

10月…理事会にて第11期役員・事業計画、第8回評議員会および懇親パーティー1993を検討（30日）。

11月…第10号会報の印刷・製本を日幸印刷（株）へ発注（10日）。第10号会報を発行（30日）。

同窓懇親パーティー1993の詳細

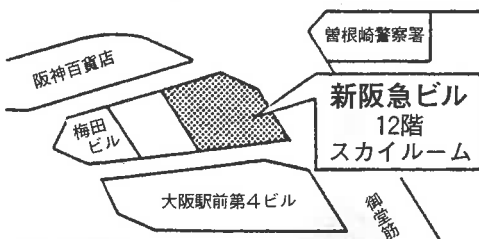
一人でも多くの同窓生に学年や学科の違いを越えた幅広い親睦と交流を深めていただくための催しです。一人でおらりと、または友人を誘ってご参加下さい。

日 時 … 1993年1月29日（金）

18時40分～20時40分

会 費 … 7000円（当日会場で受付）

会 場 … 新阪急ビル スカイルーム
（阪神百貨店南隣、新阪急ビル12F）
TEL 06-345-4127



申込方法

氏名、学科、卒業年次を、ハガキにて、1993年1月15日までに、工学部同窓会事務局へご連絡下さい。お誘いの同級生や同窓生はまとめてご連絡下さい。

工学部の電話番号〔06-605-(下記番号)〕(1992. 10. 1. 現在)

機械工学科	電気工学科	応用化学科	建築学科	土木工学科	応用物理学科
福田 武人 2660	堤 四郎 2676	小槻 勉 2693	川村 純夫 2706	園田恵一郎 2722	美馬 宏司 2742
元木 信弥 2661	鈴木 裕 2677	澤井圭二郎 2694	木内 龍彦 2707	小林 治俊 2723	曾我部 伸 2740
逢坂 勝彦 2661	南 繁行 2760	五百井正樹 2694	谷口 徹郎 2707	鬼頭 宏明 2723	藤井 康夫 2738
野邑 奉弘 2663	黒田 輝 2677	菌頭 健吉 2884	坂 壽二 2708	高田 直俊 2724	西村 仁 2739
西村 伸也 2664	志水 英二 2678	鬼塚 清孝 2885	藤本 益美 2709	望月 秋俊 2726	石黒 英治 2744
東 恒雄 2666	重田 和夫 2679	青木 修三 2697	那谷晴一郎 2709	東田 淳 2725	中山 正昭 2739
加藤 健司 2665	高橋 秀也 2679	山田文一郎 2698	成瀬 哲生 2710	大島 昭彦 2725	北田 忠義 2745
上田 祐男 2667	青笹 正夫 2680	圓藤紀代司 2698	新居 洋子 2711	山田 優 2727	森 雄造 2743
南斎 征夫 2668	前川 義治 2763	松本 章一 2698	大倉 良司 2711	真嶋 光保 2729	笹沼 道雄 2744
深井 完祐 2668	草開 稔 2681	小郷 良明 2770	多胡 進 2712	貫上 佳則 2728	人見 宗男 2745
吉岡 真弥 2767	松下 賢二 2877	矢野 元威 2771	福田 晴彦 2714	西村 昂 2730	橋本 秀樹 2741
上神謙次郎 2662	三谷 七郎 2877	三浦 洋三 2771	杉山 茂一 2713	日野 泰雄 2731	勝保 五男 2879
若林三記夫 2670	中川 吉郎 2878		徳尾野 徹 2713	岡村 治子 2731	廣重 昇 2880
森元 時夫 2670	藤井 知生 2685		濱田 学昭 2716	小田 一紀 2732	増岡 俊夫 2880
守田 栄之 2671	建部 涉 2687		赤崎 弘平 2717	角野 昇八 2733	三村三木夫 2879
秋山 貞夫 2672	山田正一郎 2686		三木 信博 2718	重松 孝昌 2733	中村 勝弘 2768
瀧山 武 2672			田中 康夫 2718	中井 博 2734	串部 宏之 2747
			南 宏和 2790	北田 俊行 2735	緒方 司郎 2791
			奥田 泰夫 2790	中西 克佳 2735	石田 順也 2791
情報工学科	生物応用化学科	事務室等			
浜 裕光 2772	仲矢 忠雄 2782	教 務 係 2653			
中島 重義 2773	笠井 佐夫 2783	庶 務 係 2651			
細川 省一 2683	北村 昌也 2783	図 書 分 室 2657			
岡本 次郎 2684	加藤 錠治 2699	守 衛 室 2096			
奥本 隆昭 2688	大嶋 寛 2700				
辰巳 昭治 2777	岡本 裕行 2700				
北村 泰昭 3081	太垣和一郎 2695				
藤原値賀人 2689	玉垣 誠三 2696				
岡 育生 2779	荻野 健治 2696				
	木下 雅悦 2702				
	山内 清 2703				

編集後記

'92年も残り少なくなり、同窓生の皆様にはさぞご多忙のことと思います。昨年は会員名簿第7号の発行年でしたが、'92年から3年間はまた会報を発行いたします。

母校では昨年、中庭の中央部に6階建の新学舎が竣工し、情報工学科と生物応用化学科の研究・教育が軌道にのりましたが、'91、'92年の春には、10名ものベテランの先生方が定年で退職されました。本号には、玉村謙太郎(機械)、大津隆行(応化)、平井竹次(応化)、本多淳裕(土木)および横田万里夫(応物)の5先生がご寄稿下さいました。是非ご一読下さい。

また、卒業生および新入生の名簿も、'91年および'92年の2年分をまとめて掲載しましたのでご参照下さい。

なお、正会員、関東支部および市大同窓会・有恒会愛知支部からの寄稿は、ページ数の関係もあって割愛いたしましたが、次号では復活する予定です。

ところで、いま産業界に共通の最大のテーマは、企業として緑の地球環境の保全にどう取り組むかだ、と云われております。会員諸兄姉の職場ではどのような保全活動が展開されているのでしょうか。

編集委員

南斎征夫(機39) 細川省一(電33) 大嶋 寛(化49)
赤崎弘平(建45) 小林治俊(土45) 北田忠義(物36)
人見宗男(機31)

新評議員 (平成3年および4年卒)

各クラスメートの皆さんはよろしくご協力下さるようお願い致します。

学 科	平成3年卒	平成4年卒
機 械 工 学	脇本 辰郎	中谷 文彦
	中川 政輝	狩野 信治
電 気 工 学	金谷 政宣	名和 孝康
	長尾 敏広	伊藤 智典
応 用 化 学	上田 篤司	山野 英治
	山岸 健一	田頭 真治
建 築 学	小西 秀和	南浦 琢磨
	三木 則緒	池内 俊之
土 木 工 学	石丸 和宏	松村 弘
	田中 善弘	仲田 義弘
応 用 物 理	高山 秀明	高瀬 祥司
	安永 英明	川島 勉